



メダカ飼育簡易説明書

- この度は、メダカ飼育セットをお買い求めいただきありがとうございました。
- メダカの原種は日本全国の水田や小川に生息しています。現在では様々な改良品種が存在し、観賞価値の高いものも多いです。飼育も容易で、水が凍ってしまわなければ屋外で越冬させることも容易です。ポウフラを好んで食べるためビオの鉢で使われることも多いです。メダカとの素敵なアクアライフが送れるよう、セット方法、飼育上の注意をよくお読みいただいた上、是非お楽しみください。

■あると便利な道具

・網 ・バケツ ・ボウル ・カップ ・ハサミ

※ご家庭にあるもので代用していただいても問題ありません。

■セット方法

※各器具の設置について詳しくは、各器具の取扱説明書を参照してください。

- ①水槽の汚れを落とします。
洗剤は使用しないで、埃や汚れを水で流しながら洗って下さい。
- ②洗った砂を容器に入れます。
砂をボウル等に入れ、お米を研ぐ要領で水でよく洗います。洗剤は使用しないでください。
- ③付属の石・流木をお好みの場所へ設置します。
写真では真ん中に設置していますが、お好みに合わせて変更してください。
囲むようにして配置すると、おもりが隠れますのでお勧めです。
- ④塩素(カルキ)を抜きます。
水道水に含まれる塩素(カルキ)は魚に有害です。塩素(カルキ)を抜く方法として、水道水をバケツやボウル等の容器に汲み置き1日放置して塩素(カルキ)を抜く方法と、適量のカルキ抜き剤で中和をする方法があります。塩素(カルキ)抜きを使用する際は、バケツなど他の容器に水を汲み、そこで塩素(カルキ)抜きで中和させた水を作ってください。
- ⑤水槽に静かに水を注ぎます。
勢いよく入れてしまうと砂が舞ってしまいますのでゆっくり注いでください。
- ⑥水草を水槽に入れます。
付属してあるおもり付きの水草ですが、そのままお好みの場所へ置くだけで設置完了です。
- ⑦魚を入れます。
水合わせをした魚(水合わせの方法は下の欄の「水合わせについて」の説明を参照)を水槽へ入れてください。足らない分の水は、先ほど作り置きした塩素(カルキ)抜き水を足してください。
- ⑧ライトを設置します。
ライトの設置は付属の説明書を参照して取り付けてください。

■水合わせについて

※水合わせは設置した水槽の温度が5～25度程度になってから行ってください。

30分～1時間

1. 袋の水の1/3程度を捨てる
2. 捨てた分水槽の水をゆっくり入れる
～ 同様繰り返す

①生体は袋に入って届きます。この生体の入った袋を、予めカルキ抜きした水(※セット方法④を参照)が入った容器(以後容器①で表記)に30分～1時間程度浮かべて袋の水温を合わせます。(※水槽に入れる水と同じ水を使用します)

②水温を合わせた後、袋に入っていた生体を容器①にゆっくり移します。容器①の中の水を3分の1程度捨て、捨てた分量の水を、水槽の中に入っている水でゆっくり足していきます。ゆっくりと水を入れることで、生体が水槽の水に徐々に慣れていきます。この「容器①の水を捨てる」→「水槽の水を入れる」作業を3～4回繰り返します。

③最後に生体のみをそっと水槽に入れて水合わせ完了です。
※輸送後の水は傷んでいる可能性があります。水合わせ後は生体のみ水槽に導入して頂けるようお願い致します。

■水質について

- ・メダカは弱アルカリ～中性のpHを好む魚です。
- ・病気にさえならなければ、丈夫で水質の悪化や低温にも耐えうる強靱さを持っています。しかし、急激な水質や水温の変化にはもろい部分もあり、速い水流は好みません。

■水換えについて

残り餌やフンなどでどうしても水は汚れてしまいます。1週間に1回程度は必ず水換えを行うようにしましょう。その際の注意点は、全ての水を一気に換えてしまわないこと。ろ材や敷材などには水を浄化してくれる硝化バクテリアというものがあります(アクアリウムにおけるろ過には大きく分けて、ウールマットなどでフンや残り餌など目に見えるものを濾しとる「物理ろ過」、アンモニアなどの水中の有害物質をバクテリアの力で分解してしまう「生物ろ過」という2種類が存在します)。1度に全ての水を換えてしまえば、有害物質を分解してくれるバクテリアまで全て水槽内からいなくなってしまうます。さらに水温や水質などが大幅に変化してしまうことで、最悪の場合生体が死んでしまうことも少なくありません。そのために1回の水換えは、必ず全飼育水の1/3～1/4を目安としましょう。水換えの水は必ずカルキ抜きで中和した水を使用してください。

■繁殖について

背ビレに切り込みが見られ尻ビレが幅広いのがオスで、これらの特徴を持たないのがメスです。産卵床として、水草や、ホテイアオイを用意すると水草の茎やホテイアオイの根に卵が産み付けられます。産産卵された卵はそのままでも孵化させることができますが、産まれたての稚魚が親魚に食べられやすいので、別の水槽に移した方が良いでしょう。卵は温度にもよりますが1週間～10日程で孵化します。稚魚は市販の人工飼料を細かくしたものと与えれば良いでしょう。

■エサやりについて

- ・水槽設置後はじめてのエサやりは、翌朝少量与えてください。その後は1日1～2回、生体が食べきれぬ量を与えてください。
- ・餌の与えすぎに注意してください。残り餌は水質悪化の原因となります。必ず食べきれぬ量を与えるように心がけましょう。